



なっちゃんが、おかあさん
とはしをわたっていると
「このかわのなまえ、しって
る？」

と きかれた。

「え！ なまえがあるの？」

「**おのがわ**と いうのよ」

「え！ **おのがわ**、どんなか
わなの？」

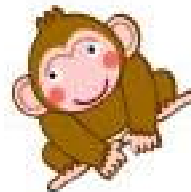
「ん～、わからないわ。しら
べて、わかったら おしえ
て？」

でも、どうしらべていいか。
さっぱり わからなかった。



こまった なっちゃん、おじいちゃんに きいてみることにした。ものをよく知っているおじいちゃんが、だーいすき。

あれあれ、これはおもしろそうと、なぜなぜくんが、もりからあそびにきたよ。どこかな？



わたしは、なぜなぜで一す。



「そうだな・・・。むかし、
きいたはなしだが、よく**おの**
がわが、はんらんしたそう
だよ。くわしいことは、あき
おさんに きいてみれば・
・。いっしょに いってあ
げるよ」



やくそくのひ。おじいちゃんとおともだち3にんで、あきおさんのいえにいった。

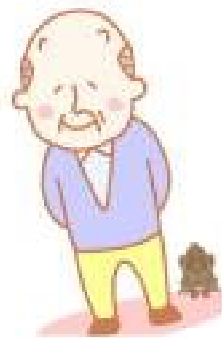
なっちゃん、あきおさんに「**おのがわ**って、どんなかわなんですか？」

ときいてみた。

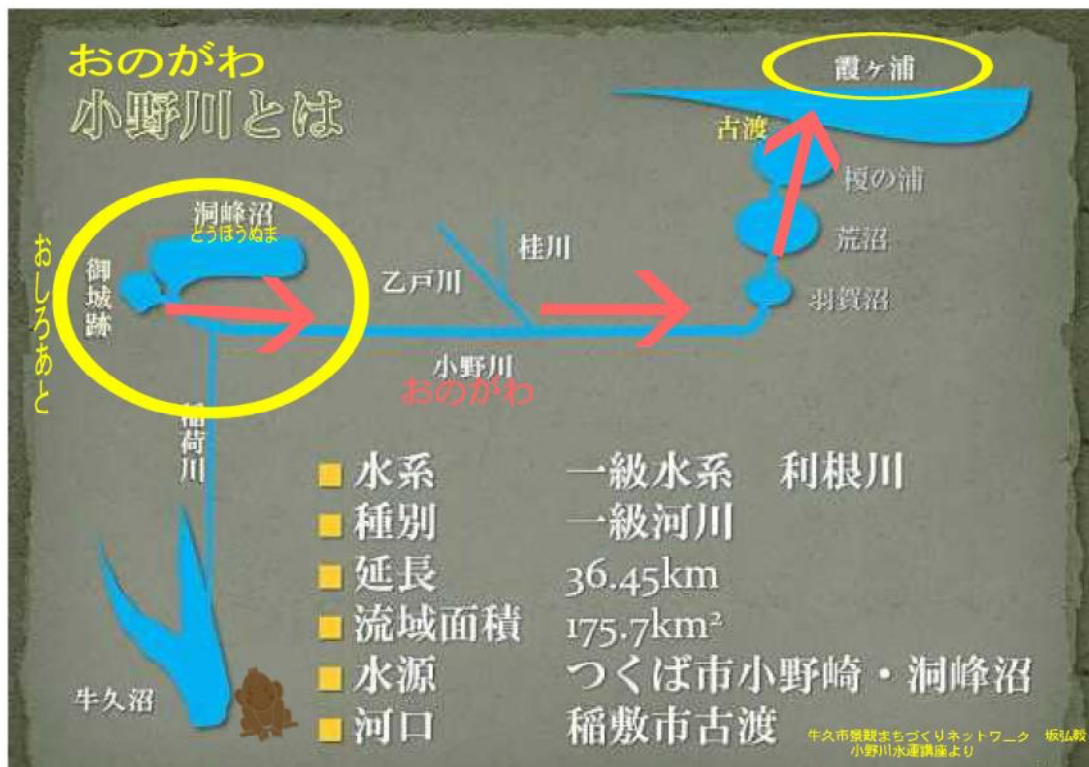
すると、にっこりわらって、はなしてくれた。

あ〜・・・ちいさいころ、**おのがわ**のあさくて せまいところをせきとめて、さかなとりをしたものだよ。ふなや どじょうが、たくさんとれたんだ。なつかしいな〜。

あ！そうそう。**おのがわ**のはなしだったね。



おのがわは、どうほうぬま
と おのさきのおしろあと
が、げんりゅうなんだ。そし
て、おのがわしょうがっこう
ふきんをとおって、ひがしに
むかって、かすみがうらにな
がれこんでいるかわなんだ
よ。



いまから やく 6000 年前。
たいりくやなんきよく・ほっ
きよくのこおりがとけて、か
いめんが4・5メートルあが
ったんだ。びっくり！ する
と、**おかみおおはし**あたりま
で、うみのみずが、あがって
きたんだ。びっくり！



そのしょうこに、うみのか
せき **トウキョウホタテ**が、み
つかったんだって。びっく
り！ それだけじゃない。ウ
バガイ・ヤツシロガイなどの
かせきも みつかったんだ。



やく1200年前（ならじ
だい）にはしまだあたりまで、
かいすいが、きていたんだ。

びっくり！

うきしまでは、しおが、つ
くられていたんだって。また
また、

びっくり！

おのがわのでんせつ

おのがわには、「酒島の霊泉（さけしまのれいせん）」というでんせつもあるんだよ。おやこうこのはちべえさんが、おじいさんのびょうきをなおすためにいどのみずをのませていた。

あるひ、おみこしがながれてきた。これはたいへんとはちべえさん、ひきあげてちかくのじんじやにまつた。みずをのみつづけると、みるみる おじいちゃんのびょうきがよくなった。ふしぎにおもって、のんでみるとおさけになっていた。そこで、このあたりがさけしまとなった。ひたちのうしくえきにしぐちにこんなぞうが、あるのしっているかな・・・？



おのがわは、あさく、まがりくねっていたので、ひとたびあめがふると かわのみずが、あふれでることが、たびたびあったんだ。



あるときは、たんぼのはんぶんが、みずにつかっていたこともあった。

それでもせんぞは、まけずにがんばって、こめづくりがさかんになっていったんだ。

そこで、またこまってしまった。できたこめをはこぶほうほうだ。

ひとが、はこべるのは、1ぴょう。うまでは、2ひょうか……。これじゃー、えどまで、たくさんはこべないよー。どうしよう？！

「あ！そうだ」

ふねがある。でも、あさくて、ふねのそこがぶつかっちゃうよ……。どうしよう？！

「ん……。あ！そうだ」

そこをたいらにしたこまわりがきくふねをつくればいいんだ！



こうして、やっと
できたのが・・・。



「伝馬造茶船

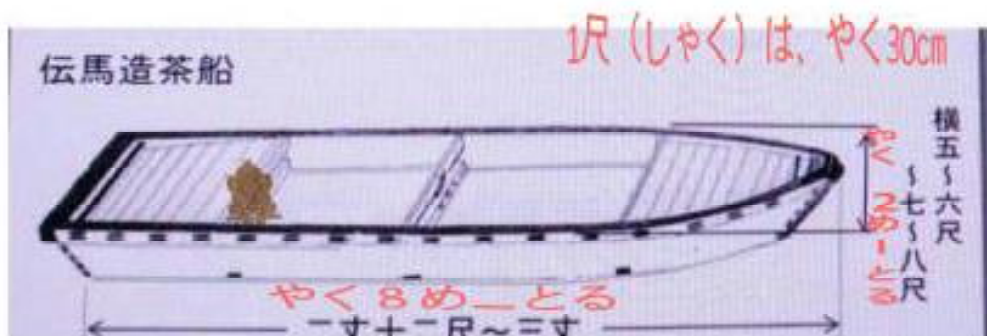
(でんまつくりちゃぶね)」だ。

このふねに のせてはこぶ
と、ひとやうまで、はこぶよ
り、はるかに たくさんのこ
めをはこぶことができたん
だ。

びっくり！

中央市博物館蔵 中江氏蔵 小野川水産資料より

でんまつくりちゃぶね



このふねをつかって、こめ
 やまき・すみをけっそくから
 おさか・しょうじき・きみが
 をとおって、いさつまでのせ
 て、そこでたかせぶね（500 こくぶ
 ねとよばれた おおがたのほせん）に つ
 みかえてふっとからかすみ
 がうらにでたんだ。ここまでが、
 おのがわだ。



※ したのひょうは、はこぶちからくらべだ。

はこぶちからくらべ

江戸時代の輸送力

江戸時代の輸送力	
たかせぶね	200～1200ひょう
利根川高瀬船	200～1200俵
鯉下船	240～480俵
せんまつくりちやぶね 伝馬造茶船・小鵜飼船	25俵 25ひょう
馬 うま	2俵 (1駄) 2ひょう
人 ひと	1俵 1びょう

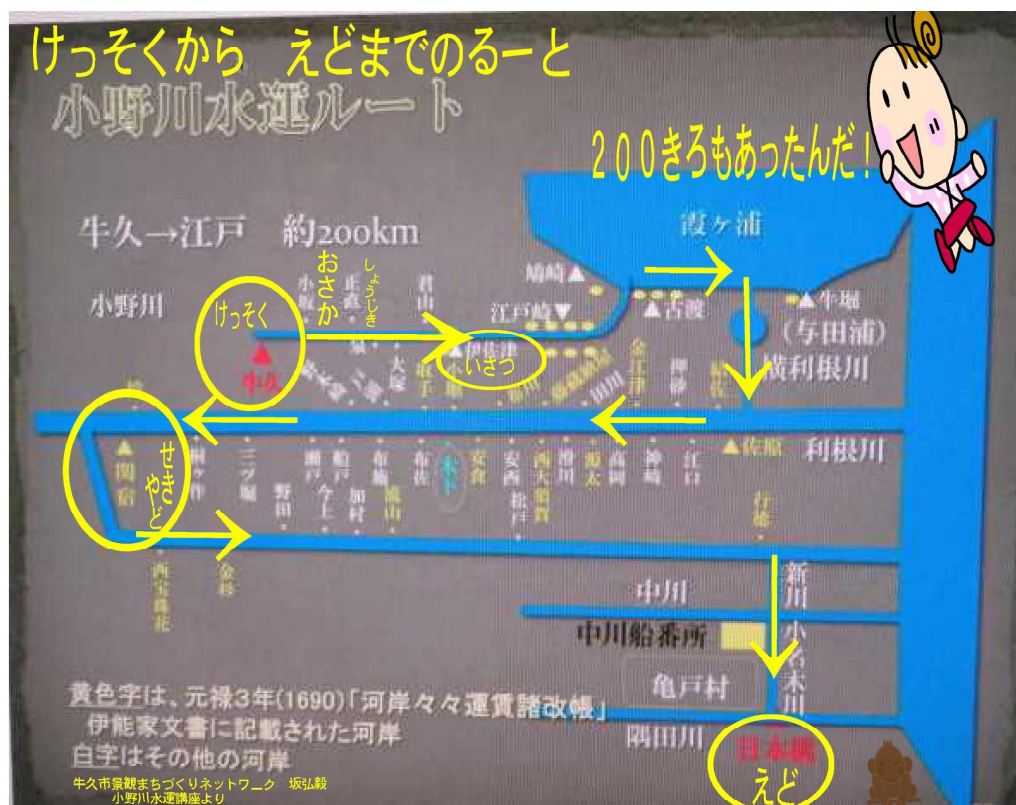
中央経済調査会「江戸時代」ネットワーク 巻1
 江戸時代の輸送力

ひとやうまにくらべたら、
でんませんやたかせぶねが、
いかにたくさんのこめをは
こぶことができたか、よく
わかった。

ふね
すごーい



そのあとは、よことねがわ
 ・とねがわ・せきやど・ぎょ
 うとく・しんかわ・おなぎが
 わ、そしてえどへおくられた
 んだ。そのきよりおよそ
 200キロだ。びっくり！



「あ！　そうか、**おくのちく**
が、**せきやどはんのりょうち**
だったのは、こめ・まき・す
みなどを**おさか**から**せきやど**
まで**おのがわ**をつかって、は
こぶことができたからだった
かも？！」



びっくり!

Goal

ちよつとひとやすみ



ちなみに、みとはんでは、
かすがうらのくしびきからみ
とはんこうめてい（スカイツ
リーあたり）まで、いきはほ
とさおをつかって9にち。

えどがわは、くだりのきゅうりゅうだったので、せきやどからぎょうとくまで1にちでいけたんだ。



ぎゃくにかえりは、14に
ちかかったんだ。どうしてだ
とおもう？

それはね……。えどがわ
のきゅうりゅうをのぼるので
いつかちかかったんだって。

びっくり！

おのがわをつかって、ふね
で ものをはこぶことは、の
ちに てつどうができるま
で、とっても たいせつだっ
たんだよ。

※ここで、もういちど、はこぶちからを
くらべをみてみよう。



はこぶちからくらべ

江戸時代の輸送力

江戸時代の輸送力	
たかせふね 利根川高瀬船	200～1200ひょう 200～1200俵
鯨下船 でんまつりちやふね 伝馬造茶船・小鶴飼船	240～480俵 25俵 25ひょう
馬 うま	2俵 (1駄) 2ひょう
人 ひと	1俵 1ぴょう

中央市役所まちづくりネットワーク 編纂
小宮山 浩二 監修



ふねって すごい！

そのご、しょうわ47ねん
 ごろに とちかいりょうじぎ
 ょうをおこない、ちいさい
 たやはたけを おおきなまと
 まりにしたり、まがりくねっ
 たおのがわを まっすぐにし
 たりしたんだ。

すいでん（たんぽ）のかたちのへんか



また、みずが、たりないところには、**ためいけ**をたくさんつくったんだ。たとえば、

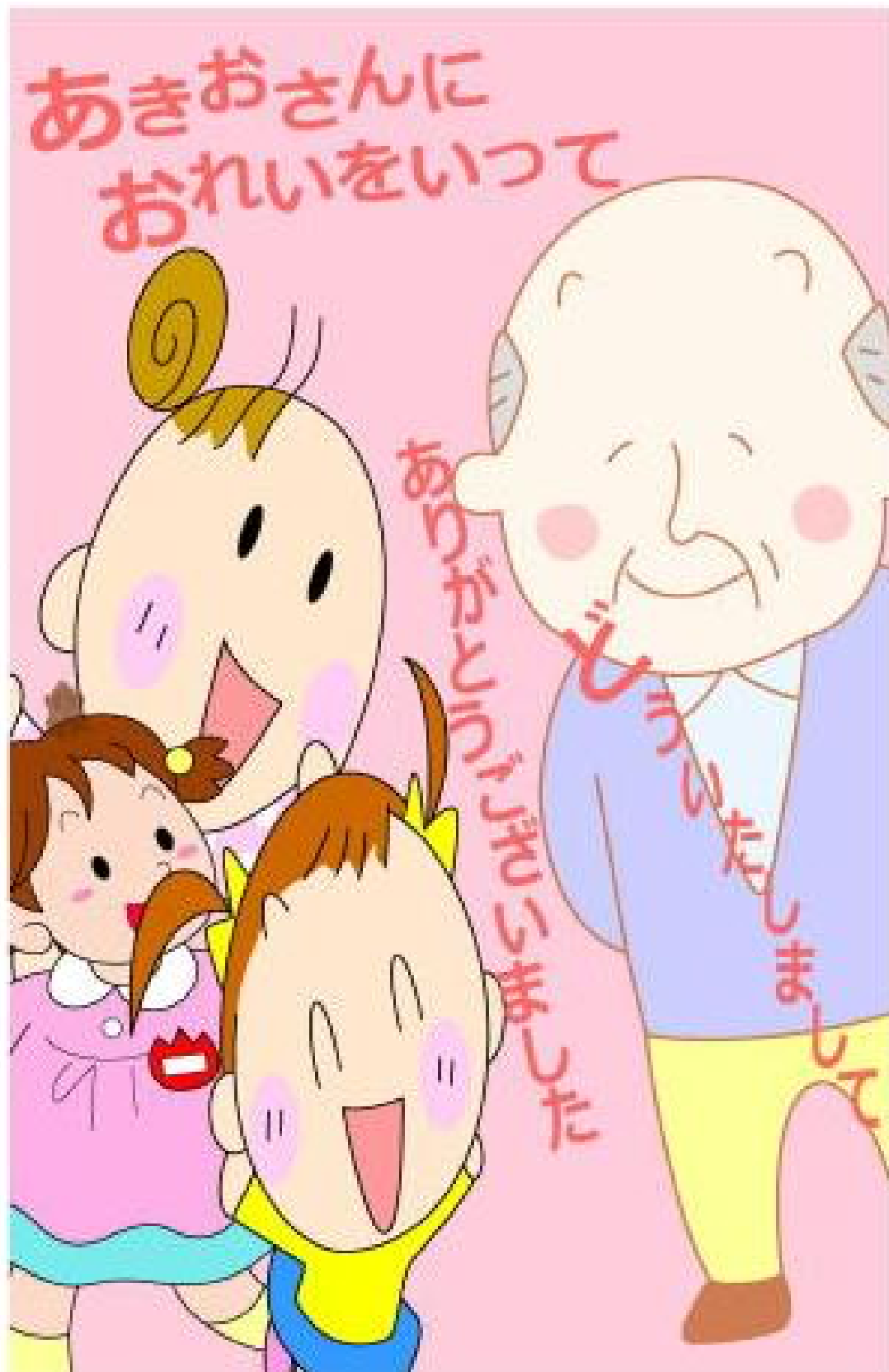
- ・しやくしょわきの
きんりんこうえん
- ・さんどういけ
(おかみじょうあと)

などだ。

そうか！

せんぞは、あせとなみだで、
おのがわのすがたをかえ、い
かしながら、さいがいをへら
し、せいかつをゆたかにする
ちえを つみかさねて きた
んだ。

びっくり！



なっちゃん、いそいで
かえって、おじいちゃん
に おしえてあげたよ。



「よく、しらべたね」

えらい えらい

と めになみだをうかべて、よろこんでくれた。

なっちゃん、おもわずにっこり。

おかあさんにもおしえてあげたよ。おかあさんもおよろこび！

なっちゃん、またまたにつこり。



こうして、さんにんは、
おのがわが、おくののた
からものの一つだという
ことが、よーくわかった。

**おのがわ
すごい！**



あて

こんどは、なにしらべ
ようかな？

あれあれ？「すごーくたのしかった」と なぜなぜ
くん。つぎのひみつをもとめてスキップしながら か
えっていった。

またね